



### 厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課長に就任して（ご挨拶）

厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課長 **林 修一郎**

公益社団法人日本精神保健福祉連盟の会員各位及び関係者の皆さまには、平素より精神保健福祉に関する正しい知識の普及をはじめ、精神保健福祉の向上にご尽力をいただいていることに感謝申し上げます。精神保健福祉行政の推進につきまして、ご理解・ご協力を賜り、また、令和3年9月に着任以来、皆様にご指導、ご助言を賜っており、深く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行の中で、それまでの当たり前の日常とは異なる生活が続いています。人のつながりが貴重であることに改めて気付かされ、直接会えない中での人間関係のあり方の模索が続いています。また、感染症の流行や外出自粛などに伴う様々な不安を多くの人が感じ、こころの健康の大切さにも関心が高まっています。こころの健康・メンタルヘルスに関して、社会の構成員である私たち一人一人が理解を深めていくことの重要性を感じています。

このような中で、精神保健医療福祉において、しっかりと取り組んでいくべき重要な課題がございます。

まず、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築です。これは、お一人お一人が、地域において自分らしく安心して暮らせるよう、医療、福祉、住まいの確保、就労、教育などに関わる様々な職種や機関が連携して取り組んでいく仕組みです。医療と福祉の連携は、精神分野で先行した取り組みが行われてきましたが、近年では、介護など他の領域での取り組みが目覚ましく進んでいます。バックグラウンドの異なる多職種の共同作業には、ときにはエネルギーが必要ですが、精神障害者の支援の充実に向け、確かな歩みを進めていく必要があります。また、生活に様々な困りごとを抱える方々の背景に、実際には精神保健の課題が多くみられることから、精神保健の相談支援体制をより身近なものとするとともに、介護、困窮、児童など様々な分野と精神保健分野の相談支援体制を連動させていくことも重要です。

また、精神科医療の向上は、極めて重要な課題です。精神科医療の中でも、患者の増加等によりニーズが顕著に高まっている領域があり、こうした領域に医療資源を確保していくことが求められます。また、認知行動療法のように、より密度の高い医療従事者の関わりを要する治療の比重が高まっています。精神科医療の個別分野においては、例えば、依存症への対策も大変重要です。第2期アルコール健康障害対策推進基本計画が策定されるとともに、ギャンブル等依存症対策推進基本計画の見直しの検討が行われており、こうした計画等に基づいて、アルコール、薬物、ギャンブル等への依存症への医療体制や支援体制の確保に注力していく必要があります。発達障害等に対応する児童思春期精神科領域の医療のニーズが増しており、適切な医療体制の確保が求められます。てんかんや摂食障害の方々への治療や支援にも、他の診療科と連携して取り組んでいく必要があります。

メンタルヘルスに対する国民的な理解も重要です。10月10日の世界メンタルヘルスデーを契機とした普及啓発事業に取り組んでいますが、さらに、メンタルヘルスについて多くの方が正しく理解し、周囲の方々への傾聴などを行うことができるよう、「こころのサポーター」の養成にも取り組んでまいります。

こうした課題に取り組み、精神保健医療福祉を向上させていくためには、人材の育成や確保が大変重要です。精神保健指定医の申請審査に口頭試問を導入するなど、適切な運用に努めてまいります。精神保健福祉士の養成カリキュラムの見直しを踏まえた国家試験のあり方の検討も行っております。公認心理師については、制度創設から5年が経過し、一層の活躍が期待されています。

このように、精神保健医療福祉における重要な課題は数多くございます。こうした課題に誠心誠意取り組んでまいり所存です。引き続き、ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。皆様の益々のご発展を念じつつ、就任のご挨拶とさせていただきます。

# 第68回精神保健福祉全国大会が開催される

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟 事務局長 中山 拓 治

令和3年10月15日に埼玉県さいたま市、県民健康センターで、コロナ禍で中止された昨年からの2年ぶりに埼玉県としては初めての第68回の精神保健福祉全国大会が、厚生労働省及び公益社団法人日本精神保健福祉連盟が主催し、埼玉県、さいたま市、日本精神科病院協会埼玉県支部、埼玉県精神神経科診療所協会、埼玉県精神保健福祉協会が共催、最高裁判所、内閣府ほか多数の中央省庁、各種医療関係団体等の後援を受けて開催されました。

大会当日は、新型コロナウイルス感染症が収まらない中、オンラインを活用したハイブリッド方式で埼玉県内外の精神保健福祉関係者や精神に障害を抱える当事者等が参加されました。

本大会は、「ダイバーシティ（多様性）の視点から社会のあり方を考える」を大会テーマとし、大会趣旨は、障害の有無に関わらず、誰もが安心して暮らすことができる、多様性のある社会の実現をテーマに開催されました。

大会を通して、精神保健福祉に関する理解を深め、正しい知識の普及と精神保健福祉施策の推進を図ってまいります。

また、感染症対策を講じ、「新しい生活様式」を積極的に取り入れることにより、安心安全な大会を目指してまいります。

午後13時30分から始まった記念式典では、最初に前回開催県の奈良県から「心をひらく鍵」の引き継ぎが行われた後、山内俊雄大会実行委員会会長の開会の言葉に引き続き、鹿島晴雄公益社団法人日本精神保健福祉連盟理事長の式辞、厚生労働大臣、埼玉県知事並びにさいたま市長の挨拶がありました。その後、精神保健福祉事業功労者の表彰に移り、個人55名及び9団体に厚生労働大臣表彰状が授与され、続いて公益社団法人日本精神保健福祉連盟会長表彰が行われました。受賞された皆様には日頃からの活動に敬意を表すると共に、心からお慶びを申し上げます。

記念式典は、最後に次回開催県の山口県 弘田 隆彦 健康福祉部長から歓迎の挨拶で滞りなく終わりました。

式典終了後に行われた同県精神保健福祉協会の「ココロのあおぞら音楽祭実行委員会」が企画したアトラクションでは、精神障害をお持ちの当事者や関係機関の皆さんによる演奏・合唱が放映されまし

た。「ココロのあおぞら音楽祭」はそれぞれの団体が日ごろから取り組んでいる音楽活動に発表の場を提供し、相互の交流を深め、社会参加を推進しようと平成27年から行っているもので、初のオンライン開催となる今回は、全国大会にご参加の皆様を歓迎する意味も込めて作成したものです。

午後からの記念講演では、ノートルダム清心女子大学杉山博昭教授が「～渋沢栄一に学ぶ福祉の未来～」と題して、埼玉県深谷市出身であり、社会福祉の先駆者と称される渋沢栄一が社会福祉の分野に残した業績について講演されました。

記念講演後には、本大会のテーマである「ダイバーシティ（多様性）の視点から考える」と題してシンポジウムが行われました。大会実行委員会の山内会長が座長となり、埼玉県や県内自治体の担当者をシンポジストとしてお招きし、それぞれの取り組みについてお話をいただきました。

最後に、菅野 隆日本精神科病院協会埼玉県支部長の閉会の言葉で盛会のうちに閉幕しました。

本大会を成功裡に終えることができましたのは、大会実行委員会の山内会長はじめ実行委員会の委員の方々、そして埼玉県、さいたま市並びに関係団体の皆様のおかげであり、ご協力に心より厚く御礼申し上げます。





## 動き movement

# 岐阜県精神保健福祉センターの動き

岐阜県精神保健福祉センター 所長 **丹羽伸也**

岐阜県精神保健福祉センターは、平成27年4月、ぎふ清流福祉エリアに完成した岐阜県障がい者総合相談センター内に、岐阜県知的障害者更生相談所と岐阜県発達障害者支援センターとともに移転し、所長は現在この3つの機関の兼務となっています。主管課は岐阜県精神保健福祉センターが保健医療課、後者2つが障害福祉課ですが、現場では縦割りの垣根を超えて横につながりやすくなっています。

ワンストップという理念は開設当初から言われてきましたが、建物としても連携しやすい構造となっています。講演会や関連情報なども3つの機関が共有しやすく、例えば精神保健福祉センターの依存症の担当者が、発達障害者支援センターの発達障害の依存についての研修を聴講するなどです。発達障害者支援センター職員が精神科関連の情報に接することは特に重要です。

最近の相談事業として、令和4年1月から専門の相談員を配置した「新型コロナウイルス感染症に対応したこころのケア相談」が開設されました。その他岐阜県精神保健福祉センターの特徴として、高次

脳機能障害に関するサービスがあります。高次脳機能障害者への連続したケアを実現するための高次脳機能障害支援モデル事業が平成13年度から行われ、モデル事業終了後精神保健福祉センターが県の高次脳機能障害支援の窓口として位置づけられ、支援拠点病院の中部脳リハビリテーション病院（木沢記念病院から改組）と連携しながらさまざまなサービスを行っています。

次に自殺対策として、長期にわたって自死遺族のグループ（千の風の会）の組織育成をしてきましたが、自殺予防にも積極的なメンバーが担当職員とともに学校現場や警察関係機関等を訪れSOSの出し方教育等で発言していただいています。自殺の実態を伝える手法として一定の効果があると思われます。ひきこもり地域支援センター事業の当事者フリースペースは、県立図書館奥の落ち着いた部屋で行われ、掲示を見て気になっていた当事者が1年後に入室するというような例があります。令和3年度より法律とこころの健康相談をセンター内で実施し多くの相談を受けています。



## 動き movement

# 宮城県精神保健福祉センターの動き

宮城県精神保健福祉センター 所長 **小原聡子**

宮城県精神保健福祉センターでは自死対策、ひきこもり対策、依存症対策、災害対応関連事業の4つを重点事業として掲げていますが、今回はひきこもり対策で当センターに設置された宮城県ひきこもり地域支援センターを紹介します。活動としては個別相談、家族会、支援者研修に加えて、フリースペースの運営や地域のネットワーク作り等も行ってきました。その中で、地域ではまだまだひきこもりについての理解が十分でない面や支援者自身も実際の関わりについて難しさや不安を抱えながら活動している現状がみえてきました。そこで、ひきこもり支援に携わる方々をサポートするメニューとして、当事者の体験を伝える事業やひきこもりサポーター養成事業、現場に向いて支援者を直接支援するスタートアップ応援事業を令和2年度から開始しました。新型コロナウイルスの影響もあり、思うように活動できない状況が続いていますが、市町村が一次窓口として位置づけられたこともあり、引き続きひきこも

り支援の底上げに力を入れていきたいと思っています。

最後に、当県では震災後の平成23年12月に東日本大震災後の心のケアを担う機関としてみやぎ心のケアセンターが設置され、現在でも被災市町への支援を続けています。令和2年度で終了予定でしたが、今だニーズがあるとの判断で令和7年度まで延長となりました。この10年余の活動を通して心のケアセンターは被災者支援という枠に留まらず、精神保健分野における地域の重要な支援機関の1つとなりました。その終了は地域にとって大きな変化ですが、本当の意味で平時に戻ってゆくためには、通常の地域精神保健活動として被災市町を中心に県や関係機関がしっかりと連携して被災者である住民を支えていくことが大事だと考えています。そのためにも重点事業等の実践を通して、地域の支援者から頼られるような精神保健福祉センターを目指していきたいと思っています。

# 公益社団法人日本精神保健福祉連盟役員並びに名誉会長一覧

2021年12月現在

## 1. 理事 (16名)

### 【代表理事 2名】

会長 鮫 島 健 公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長  
理事長 鹿 島 晴 雄 慶應義塾大学医学部客員教授

### 【常務理事 3名】

常務理事 大 西 守 日本精神衛生学会 常任理事  
長 瀬 輝 諠 公益社団法人日本精神科病院協会 副会長  
竹 島 正 一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 会長

### 【理事 11名】

理事 小 島 卓 也 公益財団法人日本精神衛生会 理事長  
辻 哲 男 公益財団法人復光会 常務理事  
東小菌 誠 公益財団法人矯正協会 常務理事  
伊 藤 聰 公益社団法人全日本断酒連盟 理事長  
吉 川 隆 博 一般社団法人日本精神科看護協会 会長  
田 中 慶 司 公益社団法人アルコール健康医学協会 理事長  
三 木 和 平 公益社団法人日本精神神経科診療所協会 会長  
宮 部 真 弥 子 公益社団法人日本精神保健福祉士協会 業務担当監事  
大 野 史 郎 公益社団法人日本精神科病院協会 理事  
高 畑 隆 一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 監事  
田 中 正 博 一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 専務理事

## 2. 監事 (2名)

松 村 英 幸 公益社団法人日本精神科病院協会(医療法人社団根岸病院 理事長・院長)  
丸 山 晋 一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 監事

【 役員任期 令和3年6月9日より令和5年の定時社員総会終了まで 】

注1 公益社団法人日本精神保健福祉連盟定款  
第27条(役員任期)によるものとする。

【 本連盟の名誉会長であられた保崎秀夫先生が、令和3年11月に死去されました。慎んでお悔み申しあげます 】

## 〈編集後記〉

連盟だよりNo. 72をお届けします。

今回は、新たに厚生労働省精神・障害課長に就任された林修一郎先生よりご玉稿を頂きました。コロナ禍が依然として続くなか、今後の精神保健福祉に関する課題についてわかりやすくご説明いただきました。改めて感謝申しあげます。

残念ながら、「第21回全国障害者スポーツ大会」(三重県)は、新型コロナウイルス感染症の影響から中止・延期となりました。一方、「第68回精神保健福祉全国大会」(埼玉県)は無事開催することができました。人数をしぼった対面式とオンラインでのハイブリット形式での開催という新たな試みでした。準備に万全を期していただいた地元関係者の方々に、深く感謝申しあげます。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せません。引き続き関係団体の方々のご協力をお願いする次第です。

(M. O.)

## 編集委員会

委員長 大 西 守 公益社団法人日本精神保健福祉連盟常務理事  
委員 高 畑 隆 一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会監事  
窪 田 澄 夫 一般社団法人日本精神科看護協会業務執行理事  
中 田 貴 晃 キューブ・インテグレーション株式会社取締役  
松 井 知 子 杏林大学元教授

発行 2022年2月10日

発行者 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

会長 鮫 島 健

〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14

TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309

Email : office-renmei@f-renmei.or.jp

HP : <http://www.f-renmei.or.jp/>